

<b>応用電気工学</b> <b>(Applied Electrical Engineering)</b>		<b>4 年・後期・2 学修単位 (α)・選択必修</b> <b>電子制御工学科</b> <b>担当 上田 悦子, 矢野 順彦</b>
[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標] (2)	[システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標] D-1(80%), B-1 (20%)	[JABEE 基準] d-2a, d-2b
<b>[講義の目的]</b> 1 年での電気回路, 2 年での交流理論 I, 3 年での交流理論 II で学んできた回路計算の基礎知識をベースに, 回路解析や二端子対回路 (四端子回路) など様々な回路計算手法を習得し, 応用力を身につけることを目的とする.		
<b>[講義の概要]</b> 相互誘導回路, 二端子対回路 (四端子網回路) など, 回路解析や回路網理論について講義する. これらの知識を元にした応用的な電気回路計算に, 自ら取り組めるよう問題演習も適宜行う.		
<b>[履修上の留意点]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容の定着のためには, 繰り返しの演習が不可欠である. そのため, 講義中の問題演習だけでなく, 小テストを実施する.</li> <li>・ 講義中は必ずノートを取り, レポート課題については自学自習により解けるようにすること. (適宜, ノート提出を求めることがある)</li> </ul>		
<b>[到達目標]</b> 中間試験: 相互誘導回路, 二端子対回路の基礎を理解できる. 期末試験: 各種の応用的な電気回路 (回路網含む) の計算ができる.		
<b>[評価方法]</b> 定期試験 (80%), 小テスト (15%), 各種課題・講義ノート作成 (5%) を総合して評価する.		
<b>[教科書]</b> 「電気回路」(出版社: 実教出版, 著者: 金原 繁) <b>[補助教材・参考書]</b> 「電気回路 1 直流・交流回路編」(出版社: コロナ社, 著者: 早川 義晴) 「配布プリント」 など		
<b>[関連科目]</b> 電気回路, 交流理論 I, 交流理論 II, 電磁気学 I, 電磁気学 II, 電子工学, 電子回路, 電子制御工学実験 の学習内容と関連する.		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンスと復習	授業の進め方の説明とこれまで学んできた電気回路理論の復習を行う。	
第2週	相互誘導回路 (1)	相互誘導回路のインピーダンスについて解説する。	
第3週	相互誘導回路 (2)	相互誘導回路の等価回路について解説する。	
第4週	相互誘導回路 (3)	結合係数と理想変圧器について解説する。	
第5週	相互誘導回路 (4)	相互誘導回路の回路計算演習を行う。	
第6週	二端子対回路 (1)	二端子回路とインピーダンス行列について解説する。	
第7週	二端子対回路 (2)	二端子対回路の直列接続の回路計算について説明し演習を行う。	
第8週	前半のまとめと演習	これまで学習した内容をまとめ、問題演習を行う。	
第9週	二端子対回路 (3)	アドミタンス行列と二端子対回路の並列接続の回路計算について説明し演習を行う。	
第10週	二端子対回路 (4)	F 行列について解説する。	
第11週	二端子対回路 (5)	h 行列について説明し、演習を行う。	
第12週	二端子対回路 (6)	二端子対回路の回路計算演習を行う。	
第13週	回路解析 (1)	電気回路解析について解説する (グラフ理論など)	
第14週	回路解析 (2)	電気回路解析について解説する (ひずみ波など)	
第15週	まとめと演習	これまで学習した範囲をまとめ、問題演習を行う。	
期末試験			

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)